

I 法人本部

1. 基本方針及び基本理念

1997年法人設立当初より掲げてきた、自然との共生を目指し、ものづくりひとすじの思いを土台とした法人運営を行った。

～ 基本理念 ～

- ・ 私たちは、自然との共生・地球環境の保全に寄与し、資源の循環を目指します
- ・ 私たちは、自然の中に生かされていることを自覚し、地域とともに、共生社会の発展に努めます
- ・ 私たちは、利用者さんの自己実現のために、一人ひとりにしっかり寄り添い、声なき声をくみ取ります
- ・ 私たちは、職員一人ひとりが法人の一員であることを自覚し、社会人として常に研鑽を積んでいきます

——— 平成28年2月25日制定 ———

2. 令和6年度 重点取り組み事項

(1) 中期経営計画の進捗状況（2020年度～2024年度）

5年目進捗状況は、達成できた項目は約48%、概ね達成できたを含めると、約93.3%の達成率で、前年度(90%)より上回った。

内訳で見ると、達成できた項目は「利用者の視点」では53%、「財務の視点」47%、「業務の視点」44%、「人材の視点」46%、また、概ね達成できたを含めると「利用者の視点」では100%、「財務の視点」では93%、「業務の視点」では88%、「人材の視点」では92%であった。

日常業務のスリム化やマニュアル作成等の項目の「業務の視点」に若干の課題が残った。

詳細については、事業所毎、事業報告として掲載。

(2) 地域交流ゾーンの整備に向けて

法人の理念である地域共生社会の実現に向け、各事業所で取り組んでいる独自の作業（織り・染・PP製品・農業等）を通し、利用者と地域住民の方々とふれあい、共に活動するための地域交流ゾーン整備計画策定に向けて、プロジェクトチームが始動した。

- ・ 本部、3事業所のメンバー4名によるプロジェクトチーム始動

＊令和6年8月29日(木) 第1回の会議を行う

- ・ 地域交流ゾーンの一部、染め工房、倉庫の片付けに着手
- ・ 全職員共通理解を図るため、職員研修にて地域交流ゾーンの現状を報告した
- ・ 全職員に、どのような形態にするのか意見をきくためアンケート調査実施

3. 評議員会・理事会等

(1) 評議員会（2回）

開催月日	出席者数	審議事項
令和6年6月21日 第1回	評議員 7名 欠席 1名 理事 1名 監事 2名	決議事項 ・ 令和5年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書） 附属明細書並びに財産目録の承認の件 ・ 定款の変更 ・ 報告事項 令和5年度事業報告 過去3年間の財務分析 役員等の報酬規程の改正（令和3年3月24日理事会提出）
令和6年10月17日 第2回（決議の省略）	評議員 8名	決議事項 ・ 定款四条 事務所所在地の表示変更

(2) 理事会（9回）

開催月日	出席者数	審議事項
令和6年4月16日 第1回（決議の省略）	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ 評議員辞任に伴い、新たな評議員候補者の推薦 ・ 評議員選任・解任委員会の開催について
令和6年5月30日 第2回	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ 令和5年度事業報告 ・ 令和5年度計算書類、附属明細書及び財産目録承認 ・ 定時評議員会招集の件 ・ 定款の変更、定款細則の改正 ・ 就業規程の改正 ・ 給与規程の改正 報告事項 ・ 評議員補充の選任について報告 ・ 理事長の職務執行状況の報告
令和6年7月19日 第3回	理事 5名 監事 1名	決議事項 ・ まつかさ 修繕積立金取崩及び目的外使用について ・ 令和6年年度第1次補正予算について
令和6年9月5日 第4回（決議の省略）	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ 施設長人事異動について
令和6年10月2日 第5回（決議の省略）	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ 定款四条、事務所所在地の表示変更 ・ 評議員会の開催について
令和6年12月17日 第6回	理事 7名 監事 1名	決議事項 ・ 令和6年度第二次補正予算について 報告事項 ・ 令和6年度定期監事監査結果報告
令和7年1月26日 第7回（決議の省略）	理事 7名 監事 2名	決議事項 ・ 令和6年度第三次補正予算について

令和7年3月18日 第8回	理事5名 監事2名	決議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・修繕積立金、備品購入積立金取崩（ひくまの、あかね） ・令和6年度第四次補正予算について ・令和7年度事業計画 ・令和7年度当初予算 ・令和7年度役員賠償責任保険 ・次期評議員候補者の推薦 ・評議員選任解任委員会の招集 ・給与規程の改正 ・虐待防止対応規程の改正 報告事項 理事長の職務執行状況について
令和7年3月28日 第9回（決議の省略）	理事7名 監事2名	決議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・次期評議員候補者の推薦について

(3) 監事監査（業務執行状況及び財産の状況を監査）

開催月日	種別	監査項目
令和6年5月20日	決算監査	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業報告書 ・令和5年度計算書類及びその附属明細書並びに財産目録
令和6年11月12日	定期監査	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度中間(令和6年4月～令和6年9月)業務監査・会計監査

(4) 会計事務所による月次指導

開催月日	内 容
毎月1回	<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理業務の指導及び経営支援

(5) 浜松市による社会福祉施設の指導監査等（法人監査、施設運営指導）

開催日時	指 導 項 目
法人監査	該当なし
施設運営指導	<ol style="list-style-type: none"> 生活介護・就労継続支援事業所 B 型 ひくまの 改善指導事項 <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から支払いを受ける費用について、認められていない費用を徴収している(家族会会費) →請求及び領収を区別し、家族会が行う。 その他、助言指導事項3点 速やかに対応 就労継続支援事業所 B 型 まつかさ 改善指導事項 <ul style="list-style-type: none"> ・便所の増設に伴い変更届が出されていない。 →直ちに平面図を提出した。 ・利用者に係る契約をしたとき、受給者証記載事項等支給決定を行った市町村に報告すること。 →直ちに報告した。 その他、助言指導事項4点 速やかに対応 共同生活支援事業所 あかね 改善指導事項 <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束適正化委員会及び虐待防止委員会の結果を職員に周知していなかった。 →議事録を回覧、押印で周知

4. 会議・研修等

(1) 内部会議

会 議	実施(曜)日	参 加 者
運営会議	月 1 回	理事長、施設長、事務次長
虐待防止・身体拘束等 対応委員会	原則 月1回 その他必要に応じて	理事長、施設長、事務次長
感染対策委員会		
研修委員会	11回 開催	各事業所 担当者
パラスポーツ実行委員会	5回 開催	同 上
地域交流プロジェクト	8回 開催	同 上
四季彩堂プロジェクト	12回 開催	同 上
企画会議	第2火曜日	主任、サービス管理責任者
工賃評定会議	半年に1回・適宜	施設長、サービス管理責任者、主任
職員会議	毎月1回 毎朝(15分)、毎夕(15分)	全 員
支援会議	2か月に1回・適宜	全 員

(2) 内部研修

研 修 名	内 容
法人全体職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 年 2 回テーマ別研修会を実施 9月28日 テーマ「共生社会の実現のために地域交流の在り方を考える」 事業所毎、地域交流実績報告等 DVD視聴 3月28日 テーマ「分かっていますか、BCP」 浜松市防災学習研修センターにて(AED体験) BCP訓練 (DTCを使った机上訓練) 事業所毎事業継続計画説明・周知
新規採用職員研修	該当職員なし
内部研修会	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修サービス「サポーターズカレッジ」を活用 キャリア別、希望するテーマ別研修。
自己啓発研修	<ul style="list-style-type: none"> 業務の振り返りチェックシートを使用して自己啓発につとめた。
個別支援研修	<ul style="list-style-type: none"> 事業所毎に研修計画を立て、年間 6～12回実施。 支援への共通認識を深め、相談しやすい職場づくりも兼ねた。

(3) 外部会議

- ・管理部門研修： 新型コロナの影響でリモートによる会議。
- ・キャリアアップ研修： 年間18回の研修に、施設長・サビ管他、20名が参加（リモート含む）

5. 施設運営

(1) 施設の概要

令和7年3月31日現在)

名称	ひくまの		みなみ	まつかさ	やしま		あかね	
種類	生活介護	就労継続支援B型	就労継続支援B型	就労継続支援B型	共同生活援助	短期入所	共同生活援助	短期入所
利用定員	15	40	25	20	7	1	7	1
在籍数	14	45	25	20	7	—	7	—

(2) 施設整備及び主な修繕(100万円を超えるもの)

①施設整備

(単位：千円)

事業所名	内 容	金 額
まつかさ	ブロックフェンス設置、照明器具交等工事 (赤い羽根共同募金助成)	1,122

②主な修繕

(単位：千円)

事業所名	内 容	金 額
ひくまの	手洗器水洗器具等修繕工事	1,155

6. 職員構成

(令和7年3月31日現在)

施設等 職種	多機能型事業所 「ひくまの」		就労継続支援B型 「みなみ」	就労継続支援B型 「まつかさ」	共同生活援助 「やしま」	共同生活援助 ・短期入所 「あかね」	計
	就労B	生活介護					
理事長(園長)	1(1)						1 (1)
施設長	1		1	1	1(兼)	1	5 (兼1)
嘱託医		1 (1)					1 (1)
サービス管理責任者	1(兼)	1	1(兼)	1(兼)	1(兼)	1(兼)	1 (兼5)
職業指導員	4 (1)		3	3			10 (1)
生活支援員	5 (3)	3	3 (2)	1 (1)	4 (4)	4(兼2) (2)	20 (兼2) (12)
看護師		2(兼1) (1)					2 (兼1) (1)
世話人					5(兼1) (5)	4 (4)	9 (兼1) (9)
事務員	2 (1)						2 (1)
運転手			2 (2)		*4(4)	*2(2)	2 (2) *6 (6)
計	20 (8)		9 (4)	5 (1)	12 (12)	11 (8)	57 (33)

() 内の数字は非常勤職員の人数で再掲。 ※ グループホーム宿直専門職員

7. 主な年間共通行事

実施日	行 事 名
令和6年6月26日	・家族会総会 福祉交流センター
令和7年1月10日	・新成人を励ますつどい(まつかさ1名)

Ⅱ ひくまの（多機能型事業所）

1. 施設運営

（1）生活介護事業

- ・日常生活に必要な食事、整容、排泄等の介護や働くこと、創作活動などの機会を日中活動の中で提供し、「スマイル」の通称のように利用者の喜びや自己実現を活動を通じて支援し、また、個別支援計画に沿い、きめ細やかな支援を提供した。
- ・本館2階を主会場としてスマイル独自の独立した活動を意識して展開し、利用者の意思決定を大切にしながら日中活動を提供してきた。また生産活動では、スマイル独自の商品を積極的に開発し、販売等につなげてきた。
- ・独自の商品として、ハンガーに糸を結び付けて成形したモップや、刺繍をした布を使ってヘアゴム、ブローチ、ストラップ、利用者さんの絵をプリントしたトートバッグやポーチを製作し、9,361円の売り上げをイベント等で出すことができた。
- ・パンジーをプランターに定植し、灌水、追肥、花摘みをスマイルで担当した。県庁舎に設置していただく製品として3月に30鉢を納品をした。（59,400円の収入）※昨年は52,800円
- ・新型コロナウイルス感染症等への対策として、清潔な環境を整え、手洗い、手指消毒、検温を行い、感染予防に努めたが、ひくまの全体で、12月にコロナ4名インフル1名、1月にインフル7名の感染者が出た。休業することなく事業は継続したが、この月は出席率は低下した。また在籍者数が8月までは13名、9月～3月は14名であった。（7年度4月より15名に）
- ・毎月1回、虐待防止・身体拘束等対応委員会を開催し、業務振り返りシートなどを参考にして、虐待の未然防止と身体拘束の適正化に努めた。
- ・毎月1回、感染症対策委員会を開催し、看護師も同席して感染症対策に関する話し合いの場が設けられるようになった。

（2）就労継続支援事業（B型）

- ・働く場として就労の機会を提供し、利用者の働く喜びが保障され、働く力、人として生きていく力が備わるよう個別支援計画に沿い、きめ細やかな支援を提供した。
- ・作業内容は、小規模多機能の形態を維持し、利用者の意思決定が毎日の生活や活動に充分反映されるような日中活動を展開した。
- ・就労継続支援事業所として、新たに「働く」という視点を重要視し、工賃向上も視野に入れた支援体制を目指し、障害の特性に合わせた個別支援体制も充実させてきた。
- ・新型コロナウイルス感染症への対策として、清潔な環境を整え、手洗い、手指消毒、検温を行い、感染予防に努めたが、ひくまの全体で、12月にコロナ4名インフル1名、1月にインフル7名の感染者が出た。
- ・農場（ひくまのファーム）において、小麦、綿の栽培を継続し、和光アグリパートナーとの連携で初めてサツマイモの栽培、納品までを行った。苗の入荷が遅れ植え付けが遅くなったことや、天候不順の影響などもあり収量が伸びず、初年度の売り上げは44,200であった。来年度もサツマイモ栽培を実施する予定であるが、6年度の反省を生かして収穫量を上げていきたい。
小麦は令和5年度の収穫量が14kgに対して180kgへ大幅アップした。
- ・毎月1回、虐待防止・身体拘束等対応委員会を開催し、業務振り返りシートなどを参考にして、虐待の未然防止と身体拘束の適正化に努めた。
- ・毎月1回、感染症対策委員会を開催し、看護師も同席して感染症対策に関する話し合いの場が設けられるようになった。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況

(1) 生活介護（定員15名）

項 目		単位	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	264	265	253
	契約者数	人	14	14	15
	延べ人数	人	3,289	3,345	3437
	1日平均	人	12.4	12.6	13.6
	利用率	%	83.0	84.2	90.6

・利用者の状況（令和7年3月31日現在） ※旧行政区にて表記

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計		
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区						
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女	14		
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分		未判定				
手帳所持別	身体障害者手帳				療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持			手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級			2
	0	1	1	0	0	13	1	0	0	0			

(2) 【就労継続支援B型】（定員40名）

項 目		単位	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	264	265	253
	契約者数	人	45	47	47
	延べ人数	人	10,780	11068	10,402
	1日平均	人	40.8	41.7	41.1
	利用率	%	102.0	104.4	102.8

・利用者の状況（令和6年3月31日現在） ※旧行政区にて表記

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計		
	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区						
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女	45		
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分		未判定				
手帳所持別	身体障害者手帳				療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持			手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級			3
	0	2	0	0	1	26	19	0	0	0			

4. 就労支援事業

(1) 生活介護(スマイル)：全体

(単位：円)

事業	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
自主作業	96,066	90,745	5,231
下請作業	135,489	205,959	△70,470
合計	231,555	296,704	△65,149

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
果樹園芸	92,766	81,340	11,426
染織縫製	3,300	9,405	△6,105
合計	96,066	90,745	5,321

(2) 就労継続支援B型：全体

(単位：円)

事業	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
自主作業	2,287,998	2,240,381	47,617
受託作業	10,312,737	10,327,037	△14,300
合計	12,600,735	12,567,418	33,317

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
果樹園芸	152,400	216,309	△63,909
染織縫製	303,100	429,338	△126,238
食品加工	1,832,498	1,594,734	237,764
合計	2,287,998	2,240,381	47,617

②受託作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
施設外就労	7,753,734	7,824,709	△70,975
優先調達関連作業	435,600	421,300	14,300
下請作業	2,039,005	2,030,992	8,013
その他販売手数料	84,398	50,036	34,362
合計	10,312,737	10,327,037	△14,300

5. 工賃実績

※令和6年度の報酬改定より、平均工賃の計算式が見直しされました。

平均工賃月額＝年間工賃支払総額÷（年間延べ利用者数÷年間開所日数）÷12カ月

(1) 生活介護事業：月別

(単位：円)

工賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	11,830	8010	9,640	6,980	13,360	6,570	16,550	12,870	12,880	12,830	15,870	68,020	195,410	279,070
月最高額	1,200	780	980	720	1,460	640	1,820	1,400	1,390	1,390	1,760	5,700	1,603	2,987
月額最低額	390	290	360	290	500	200	200	200	200	200	540	3,570	578	1,023
月平均額	917	625	816	567	1,151	525	1,313	1,013	1,014	1,069	1,311	5,398	1,313	1,849

※令和7年3月は年度末手当（一律3,000円、計42,000円）を含む。

※工賃支給対象者に、年度途中入所者、及び退所者、入院中の利用者も含む。

(2) 就労継続支援B型事業：月別

(単位：円)

工賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	779,770	749,800	789,780	889,860	949,780	899,750	829,880	829,800	829,690	929,810	950,102	867,820	10,295,842	11,219,160
月額最高額	41,700	38,380	43,150	48,820	51,300	47,480	45,060	47,460	38,400	48,850	53,060	49,420	46,090	49,659
月額最低額	2,010	2,530	2,150	2,420	1,000	2,280	1,000	2,640	2,620	2,950	3,500	2,330	2,285	4,297
月平均額	18,261	17,809	19,169	21,546	23,685	21,628	20,045	20,388	20,898	23,599	23,693	22,251	21,029	22,420

※工賃支給対象者に、年度途中入所者、及び退所者、入院中の利用者も含む。

6. 生活支援

(1) クラブ活動

クラブ名	講師	参加人員	備考
卓球クラブ	木村由美子、小林利到子	7名	毎月1回実施
アートクラブ	職員	5名	毎月1回実施
ダンスクラブ	ヒロタツダンスシティ	7名	毎月1回実施
アクティブクラブ	職員	7名	毎月1回実施
パラスポーツクラブ	職員	9名	毎月1回実施
美味しんぼクラブ	職員	5名	毎月1回実施
クラフトクラブ	職員、ボランティア	4名	毎月1回実施

- ・活動写真を利用して利用者さんが希望したクラブで楽しく活動した。卓球クラブ、パラスポーツクラブに関しては今年もわかふじスポーツ大会に参加をした。3月に行われた「感謝の集い」において、各クラブが1年間の活動発表を行った。
- ・生活介護（スマイル）アートクラブ、ウォーキングクラブ、音楽クラブなどの活動を継続して行った。アートクラブでは、モバイル作りや紙染め、季節ごとの絵を活動エリアの壁面に作成した。ウォーキングクラブでは近隣の大きな公園に行き散策をした。音楽クラブでは手作りマラカスや太鼓等を鳴らしながら、曲に合わせて思い思いの表現をした。

(2) 茶話会

毎月1回（毎月最終の平日）に、工賃分配及び誕生会、話し合い、レクリエーション等を行った。利用者の親睦及び利用者の意見交換の場として大切に位置づけてきた。その月の誕生者には、今年度は地元の和菓子店からお菓子を購入してプレゼントをした。

秋の旅行は今年度も仕出しの豪華昼食をみんなで一緒に食べ、午後はカラオケやドライブなどのレクリエーションを実施した。コロナ以降はこの催しが定着してきており、以前行っていた秋の旅行に関しては、人数の多さから今後は可能性ややり方等を検討していく。

7. 年間行事

月	主 な 行 事	定 例 行 事
4		<主要行事> ・総合防災訓練（年1回） ・健康診断（年1回） ・歯科検診（年1回） ・避難訓練 （地震、火災／年4回）
5	健康診断	
6	家族会総会	
7	歯科検診、四季彩堂展示販売会「もうひとつの秀逸展」 保護者会ブルーベリー収穫ボランティア	
8		
9	わかふじスポーツ大会（卓球・フライングディスク） 職員研修	
10	百里園秋祭り、百里園町民運動会	
11	保護者会サツマイモ収穫ボランティア 法人内パラスポーツ大会	
12	豪華弁当及びお楽しみ会	
1		
2		<月例行事> ・体重測定 ・茶話会
3	感謝のつどい、職員研修	

8. 災害対策

(1) 事業所内の事故防止、通園途中の交通事故防止についての指導をその都度実施した。

また火災、地震を想定した防災訓練を3ヶ月に1回実施し、合わせて防災設備の自主点検を行った。

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和6年 6/14 (金)	地震避難	利用者 52人 職員 17人 69人	11時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業中に地震が発生したことを想定し、利用者の迅速な安全確認と誘導を行う。同時刻に施設外就労先から無事の連絡を受けた。 ・机の下に潜る等の一時避難、またその後の避難場所への移動もスムーズに行うことができた。オーソドックスな型での訓練についてはある程度定着しているため、今後は様々な場面を想定した中で実施を考えていく。 (所要時間4分30秒)
7/19 (金)	火災避難及び消防署への通報訓練	利用者 48人 職員 15人 63人	11時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業中に厨房より出火。初期消火担当職員は、消火器の使用手順を確認する。消防署への通報を確実にを行う。 ・職員の指示に従い落ち着いて避難ができた。人員報告も速やかに行うことができた。消火器の使用手順を確認した。 (所要時間4分)
11/27 (水)	地震避難及び防犯グッズセットの中身の確認	利用者 46人 職員 17人 63人	11時00分	<ul style="list-style-type: none"> ・午前の作業時間に地震が発生したことを想定し、伝達を正確に行い、利用者の迅速な安全確認と誘導を行う。 ・職員の指示に従い机の下に潜る。→揺れが治まったらヘルメットを被り、避難場所へという一連の動きが全体的に実行できた。人数確認もスムーズに行われた。 ・訓練後に防災グッズセットの中身を利用者と確認する時間を設けた。 (所要時間3分45秒)
令和7年 3/13 (木)	地震避難	利用者 45人 職員 16人 61人	13時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・午後の作業時間に地震が発生したことを想定し、伝達を正確に行い、利用者の迅速な安全確認と誘導を行う。 ・職員の指示に従い、ヘルメットを被り避難場所へという動きがスムーズにできた。反省点としては、欠席があったGHの利用者を参加者としてカウントしてしまったため、人数確認に手間取ってしまった。初歩的なミスであった。

(2) 事業継続計画 (BCP) 研修・訓練 令和7年3月28日 (金)

- ・浜松市防災学習センター (はま防～家) 施設見学 (センター職員による災害の説明)
- ・救命救急訓練 (中消防署隊員4名を招いての訓練)

9. 地域交流及び地域公益事業

(1) 地域交流

- (ア) 百里園自治会凧揚げ会、子供ラッパ隊（約50名）が来園し、練りやラッパ披露をしていただいた。事業所からは子供ラッパ隊にお菓子の詰め合わせの接待をさせていただいた。
- (イ) 羊の毛刈りショー開催した。袋井デンマーク牧場よりスタッフ2名が羊1頭を連れて、実際に羊の毛刈りパフォーマンスをして下さった。事業所の利用者だけではなく、回覧板で近隣家庭に宣伝をして、ご家族連れ等見学に足を運んで下さった。
- (ウ) 株式会社トップ主催の「irodori絵画展」(イオンモール浜松市野1階シンフォニーコート)に2名出品し、3日間展示された。1名が企業賞を受賞した。
- (エ) 浜松市ふれあい交流センター萩原にて行われた「萩原アート展」に6名分の絵画作品を出品し、展示をしていただいた。
- (オ) 浜松ロータリークラブより17名の会員の方々が、都田町のブルーベリー園でブルーベリーの収穫や草刈り作業等のボランティア活動をして下さった。
- (カ) 百里園自治会による秋祭りに出店をした。今年度より百里園自治会の夏祭りが秋祭りとして様変わりをし、ひくまの用の販売ブースを用意して下さった。ジャムやマドレーヌ、クッキー等を出品し、初日のみで完売させていただいた。
- (キ) 百里園自治会による町民運動会参加をした。三方原墓苑グラウンドで毎年行われている町民運動会に今年も招待、参加をさせていただいた。玉入れやパンク食い競争など、町民の皆さんに交じって交流することができた。

(2) 生活困窮者就労訓練事業

受け入れはなかったが、引き続き自立相談支援機関（生活自立相談支援センター「つながり」）と連携して受入れ準備をしてきた。（平成29年度以降、実績なし）

10. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

福祉施設実習の受入れは2校（常葉大学、常葉大学大学院、三方原中学校）

産業現場等における実習の受入れは2校（みをつくし特別支援学校、西部特別支援学校）

であった。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	
4	13	8	7	3			17	13	
5	43	22	11	1			12	15	
6	24	8	11		2	6	15	17	
7	33			2	2	11	42	38	
8	10	10	12	6	4		8	10	
9	21	8	10	3	1		9	17	
10	17	7		12	13	1	4	10	
11	24	7	5		2		40	10	
12	18	2				2	8	29	
1	22	13		1		1	13	7	
2	10	1	2		1		11	5	
3	28	14		1			10	7	
計	263	100	58	29	25	21	189	178	

Ⅲ み な み (就労継続支援 B 型事業所)

1. 施設運営

- ・事業所が日々明るく楽しい生活の場でなくてはならないという観点を重視し個別支援計画に基づいて本人の希望や家族の思いが充分反映されるよう一人一人にきめ細やかな支援を心がけて活動を行なった。
- ・作業を通じて働くことを経験し頑張ったことを工賃に反映することで働く喜びを提供した。
- ・療育的な支援や余暇活動の充実・日常生活動作の支援等、総合的な支援を行なった。
- ・自主製品の開発に向けて利用者の意見を取り入れながら進めていった。また講師を招き製品の技術を高め、付加価値の高い製品を目指した。綿作業では職人の技術を習得し綿花栽培からの糸つむぎや紡いだ糸を活用した製品づくりが良い形「マフラー」となり今後は楽しみとなった。
- ・様々な感染症に対し、手洗いや消毒などの感染症対策を努めたが 12 月に新型コロナウイルスにより利用者 6 名（職員 3 名）が感染となった。感染症の BCP（事業継続計画）に基づき訓練や研修を行う。感染症対策委員会の会議の議事録を職員へ周知し感染症について意識を高めていただいた。
- ・個々の利用者が医療関係受診や他機関の障害福祉サービスを利用する機会が増えたことがあり、出席率の低下（訓練等給付費の減額）の要因となった。
- ・虐待防止・身体拘束等対応委員会を定期開催し、虐待の未然防止や発生時の検証を行なった。また虐待防止マネジャーを中心に虐待防止のための対策について研修・業務振り返りシート（チェックリスト）やヒヤリハットを実施し検証を行った。
- ・スズキ自動車の助成活動、鈴木道雄記念財団より車イス乗降式のエブリイワゴンをいただく。車イス利用者が仲間と一緒にドライブへ行った時、本人だけでなく家族も喜んでいただいた。

2. 中期経営計画 (別紙)

3. 施設利用状況 (定員25名)

項 目		単位	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	264	265	258
	契約者数	人	25(退所1名)	26(退所1名)	27(退所2名)
	延べ人数	人	5,955	6,318	6,218
	1日平均	人	22.6	23.9	24.1
	利 用 率	%	90.2	95.4	96.4

・利用者の状況 (令和7年3月31日現在)

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中央区					浜名区	天竜区				性別	男
	25					0	0	0	0	0		
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上					
	0	8	7	5	3	1	1					
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	5	7	10	1	1	0	4.6					
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		

4. 就労支援事業：全体

(単位：円)

事業	令和6年度収入	令和5年度収入	差 額
自主作業	562,523	710,546	△148,023
下請作業	3,892,816	4,194,033	△ 301,217
合 計	4,455,339	4,904,529	△449,190

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差 額
果 樹 園 芸	46,590	63,770	△17,180
染 織 縫 製	515,933	646,776	△130,843
合 計	562,523	710,546	△148,023

②受託作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差 額
公園環境整備	3,892,816	4,194,033	△301,217
清 掃 作 業			
下 請 作 業			
合 計	3,892,816	4,194,033	△301,217

5. 工賃実績

※令和6年度の報酬改定により平均工賃月額の見直しにより平均利用者数を用いた新しい算定式となった。
 平均工賃月額＝年間工賃支払総額÷（年間延べ利用者数÷年間開所日数）÷12か月

(単位：円)

工 賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	338,760	313,760	338,720	294,760	334,750	334,780	329,760	329,770	329,740	329,790	350,760	463,950	4,089,300	4,502,220
月額最高額	31,280	29,120	32,700	28,800	32,530	32,490	31,710	32,160	28,630	33,180	35,800	45,230	32,803	35,152
月額最低額	2,130	2,270	2,370	1,000	1,000	3,920	1,810	2,890	4,110	1,000	1,000	5,540	2,420	2,559
平均工賃月額	14,244	13,307	14,804	13,566	14,682	14,466	14,080	14,338	15,945	15,958	15,854	20,383	15,115	15,737

※令和7年3月の総支給額は賞与（一律2,000円、¥50,000）を含む。

※工賃支給対象者に、年度途中退所者、入院中の利用者も含む。

6. 生活支援

(1) クラブ活動

- ・書道、イングリッシュ、レクリエーションのクラブ活動の講師を招いて実施した。また希望により絵画や手工芸クラブを行う。絵画や書道については、地域や企業で開催されるイベントに出展したり販売所で展示等したりと発表できる場を提供した。
- ・9月27日のレクリエーションクラブでは講師2名ボランティア5名を含めて、かるた工作を行い、利用者と共に交流を図った。

- ・11月27日はレクリエーションクラブ講師主催のミニ運動会（玉入れやパン食い競争）を行い楽しんだ。

(2) 茶話会

- ・毎月1回茶話会を行い、工賃分配及び誕生会、話し合い（自治会活動）、レクリエーション等を行った。
- ・利用者の親睦及び意見交換の場として大切に位置づけ、その月の誕生者には就労継続支援 B 型事業所なぎさ作業所（浜名学園）の花鉢のプレゼントを渡す。
- ・社会体験旅行は今年度もコロナ感染症対策として中止した。代替として11月の茶話会でお楽しみ食事会とカラオケを行なった。

7. 年間行事

月	主 な 行 事	定 例 行 事
4	健康診断	<主要行事> ・防災訓練（年1回） ・健康診断（年1回） ・歯科健診（年1回） ・避難訓練 （地震、火災、防犯）
5	綿の種まき（みなみの保護者と共に）	
6	家族会総会	
7	四季彩堂展示販売会「もうひとつの秀逸展」 保護者会ブルーベリー収穫ボランティア	
8		
9	きらりナイト販売会、職員研修	
10		
11	法人内パラスポーツ大会・雄踏ふれあい広場 ミニ運動会、お楽しみ食事会とカラオケ、足立柿園ドライブ、保護者会サツマイモ収穫ボランティア	
12		
1		
2		<月例行事> ・体重測定 ・茶話会
3	お花見ドライブ・職員研修	

7. 災害防止対策

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和6年 6/29 (土)	地震 避難訓練	利用者 20名 職員 3名 23名	10時00分	地震発生・地震による大津波警報発令を想定。屋外へ避難した際には、人数・怪我の有無も確認した。
8/17 (土)	地震 避難訓練	利用者 21名 職員 3名 24名	10時00分	地震発生を想定。机の下にもぐり、職員による安全確認後、ヘルメットを着用し、屋外へ避難した。
8/26 (月)	防災訓練	利用者 21名 職員 4名 25名	13時00分	発電機の操作方法を確認し始動した。防災用品の確認も行い、利用者に災害時の心得を話した。
11/9 (土)	地震・火災 避難訓練	利用者 21名 職員 3名 24名	10時00分	地震発生・地震による火災発生を想定。消防署への通報、消火器等による初期消火（模擬）。避難指示も出し、屋外へ避難した。

令和7年 1/11 (土)	防犯訓練	利用者 19名 職員 3名 22名	10時00分	不審者が建物内に侵入したことを想定で行った。利用者を避難させるとともに、支援者が椅子を使い不審者を確保。警察に通報。(模擬)
2/8 (土)	地震・火災 避難訓練	利用者 19名 職員 3名 22名	10時00分	地震発生・地震による火災発生を想定。消防署への通報、消火器等による初期消火(模擬)。避難指示も出し、屋外へ避難した。
3/1 (土)	地震 避難訓練	利用者 20名 職員 3名 23名	10時00分	地震発生を想定。怪我人が出たことも想定して、車いすや即席のタンカでの避難も行った。
3/28 (金)	防災訓練 BCP訓練	職員 6名	10時00分 ～	法人全体の研修を通して、浜松市防災学習センターの見学、救急救命訓練、BCP訓練を行った。

8. 地域交流及び地域公益事業

(1) 地域交流事業

- ・併設している販売所で地域の方との触れ合いを大切にするなど地域社会の活動(ふれあい広場)等に積極的に取り組んだ。
- ・雄踏町の3大イベントとなる雄踏ふれあい広場に今年初めて参加し、みなみを知っていただいた。温かく出迎えてくださり民生委員や地域の方と交流ができた。
- ・雄踏町にある就労継続支援B型事業所きらりのきらりナイト(イベント)に参加し他の事業所との交流を図った。
- ・自主製品や日用品で使う材料や資材を地域に呼びかけ、捨てるものを提供してもらうことで経費を抑えることができた。
- ・農作業などわからないことがあると、近隣の農家へ質問し共に畑整備をするなど行った。
- ・毎週木曜日に『いたる会』(ボランティアグループ)が来所され綿の整備を行った。
- ・地域貢献として地域の自治会費や祭りの寄付を行った。
- ・湖西市にある浜名学園(入所)から施設で使うバスマットや台ふきなど縫製品の依頼があり製作し納品している。他の事業所との交流となった。
- ・勉強会として浜北森林公園バードピアにて染めの展示を利用者と職員が学んだ。
- ・浜松市障がい者自立支援協議会西エリア連絡会全体会の構成員メンバーとなり地域の課題について協議を行った。

(2) 生活困窮者就労訓練事業の実態

自立支援機関(生活自立相談支援センター「つながり」)の斡旋に応じて、就労に困難を抱える生活困窮者の受け入れを継続しているが、伺いや受け入れはなかった。

9. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

- ・ 職場体験実習の受入れは1校（浜名特別支援学校）あった。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	
4	4	8		1			22	6	
5	5	4		4			31	3	
6	6	14	1				30	27	
7	1	7	2				23	20	
8	7	6	2	13			16	10	
9	6	8	6	2			19	20	
10	3	5	4				15	30	
11	9	11	6		1	1	18	30	
12	6	5		2			6	17	
1	5	5					10	10	
2	6						15	24	
3	4	8	4				17	19	
計	62	81	25	22	1	1	222	216	

IV まつかさ（就労継続支援B型事業所）

1. 施設運営

まつかさは、就労継続支援B型事業所として、「働く」という視点を重視し、就労の機会を提供することを心がけてきた。施設外での作業を通して、多くの利用者さんが施設外就労等を経験することになり、働く力の向上につながった。

本人の希望や家族の思いが十分反映されるよう、面談を随時実施し、きめ細かな支援を心がけた。また通勤途中の交通安全と災害時の安全についても配慮し、その確保を行った。

令和2年度から約4年間続いたコロナ禍も、一昨年5月からは5類へ移行したことで、事業所活動は、ほぼ以前の活気を取り戻した。今後も続けて、感染症への感染対策を、特に初期対応に注力しながら実施していく。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況（定員20名）

（令和7年4月1日現在）

項目		単位	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
施設利用状況	開所日数	日	264	265	258
	契約者数	人	20	20	20
	延べ人数	人	4,990	4,897	4,641
	1日平均	人	18.9	18.5	18.0
	利用率	%	94.5	92.4	89.9

・利用者の状況（令和7年4月1日現在）

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計	
	中央区					浜名区	天竜区				20	0
	19					1	0	0	0	0		
年齢別	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	性別	男	女		
	0	7	7	5	0	0	1		14	6		
障害支援区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	0	0	6	8	1	0	3.3		5			
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	0	11	9	0	0	0		

4. 就労支援事業：全体

（単位：円）

事業	令和6年度収入	令和5年度収入	差額
自主作業	740,097	626,251	113,846
受託作業	2,592,907	2,485,924	106,983
合計	3,333,004	3,112,175	220,829

①自主作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差 額
果 樹 園 芸	8,500	8,700	-200
織 染 縫 製	731,597	617,551	114,046
合 計	740,097	626,251	113,846

②受託作業

(単位：円)

作業種目	令和6年度収入	令和5年度収入	差 額
農 場 作 業	2,592,907	2,485,924	106,983
清 掃 作 業			
下 請 作 業			
合 計	2,592,907	2,485,924	106,983

5. 工賃実績

(単位：円)

工 賃	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
総支給額	163,940	200,890	200,900	200,870	219,890	219,890	219,850	219,890	334,870	234,880	259,870	502,910	2,743,830	2,978,650
月額最高額	11,640	15,080	14,270	13,910	17,540	15,790	15,300	15,540	22,180	17,630	18,270	34,520	17,639	16,383
月額最低額	4,270	4,670	5,010	5,260	5,530	6,270	4,730	5,610	10,460	5,890	6,350	14,980	6,586	5,193
平均工賃月額	8,197	10,045	10,045	10,044	10,995	10,995	10,993	10,995	16,744	11,744	12,994	24,996	13,132	12,373

※令和6年12月は賞与（一律5,000円、¥100,000）、令和7年3月は年度末手当（一律5,000円、¥100,000）を含む。

※平均工賃月額は、本年度より総支給額÷前年度平均利用者数÷12月で計算。

6. 生活支援

(1) 茶話会

毎月月末には、誕生月を迎えた方にはプレゼントを渡しお祝いをした。

(2) 社会活動

利用者が、毎日楽しく豊かに過ごすことができるように、地域社会とつながる活動を意識して取り組んだ。

7. 年間行事

月	主 な 行 事	定 例 行 事
4	健康診断	<主要行事> ・ 防災訓練（年2回） ・ 避難訓練（年2回） ・ 健康診断（年1回） ・ 歯科健診（年1回） ・ 交通安全講習（年1回）
5		
6	家族会総会	
7		
8	四季彩堂展示販売会、交通安全講習・防犯講習	
9	社会体験旅行、職員研修	

10	歯科健診、労福協まつり	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯講習（年1回） <月例行事> <ul style="list-style-type: none"> ・茶話会 ・体重測定
11		
12	法人3事業所合同パラスポーツ大会	
1	新成人を励ますつどい	
2		
3	職員研修	

8. 災害防止対策及び交通安全・防犯講習

(1) 毎年8月には、中央警察署交通安全指導課と生活安全課の協力を得て、交通安全講座と防犯研修を行った。また、地震、火災を想定した防災訓練と避難訓練をそれぞれ年間2回実施した。

実施	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和6年 5/23 (木)	避難訓練 火災・避難	利用者 19名 職員 4名 23名	12時45分	施設に2つの火災報知器が取り付けられていることを確認して、実際の警報音を聞くことで、防災学習とした。
8/16 (金)	交通安全 講習	利用者 19名 職員 5名 24名	10時30分 ～ 11時30分	浜松市中央警察署交通安全指導課の協力を得て講習を実施。今回は、歩道で待機・歩くときに、他の歩行者や自転車の通行の妨げにならないように道の端を意識して歩いた。
8/22 (木)	防犯講習	利用者 19名 職員 5名 24名	9時30分～ 10時30分	浜松市中央警察署生活安全課の協力を得て講習を実施。不審者か来訪者なのかを判断するタイミングが早すぎると、不信感を抱かれる可能性があるとの指摘を受けた。
11/1 (水)	防災訓練 地震・火災 ・避難	利用者 18名 職員 5名 23名	12時50分	身の安全を守る行動から避難行動、その後発生した火災の消火訓練までを実施。訓練後には、防災器具庫や施設内の非常用持ち出し袋の物を全て机に並べて用途など職員が説明した。発電機を職員と利用者代表が稼働させる練習や、シュラフを連結させて複数人で寝る体験を行った。
	情報伝達 訓練			浜松市障害福祉課へ指定の書式を用いて、当日にメール回答を行った。
令和7年 2/13 (水)	避難訓練 火災・避難	利用者 19名 職員 5名 24名	12時40分	火災にまつわる煙についてのクイズを5問出した。一酸化炭素中毒による危険性や体を低くして避難する重要性などを学んだ。
3/26 (水)	避難訓練 地震・避難	利用者 15名 職員 4名 19名	12時45分	防災教育として、24日に近隣で火事があったことを話した。9台の消防車と1台の警察車両が施設前の道路に集まった。地震などの大きな自然災害に見舞われた時には、道の封鎖や施設で救助を待つことが考えられる。

(2) 事業継続計画（BCP）研修・訓練

令和7年3月28日（金）には、浜松市防災学習センター（浜ぼう家）で、法人職員研修を一日行った。センター職員の説明で施設見学・防災学習を行い、中消防署隊員4名の協力でAEDや心肺蘇生訓練等による救命救急訓練を実施した。その後、事業所毎にマニュアルの周知と防災カードを使つてのBCP机上訓練を行った。

9. 福祉施設実習及び産業現場等における実習

実習の受入れは、常葉大学4年生の実習と、ひくまの・みなみからの職員交流研修。

月	来客者数		見学者数		実習者数		ボランティア数		備考
	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度	
4	18	20	2				10	10	
5	26	15	4	2			12	2	
6	25	16	1				4	5	
7	27	13	2	2			5	3	
8	36	26	1	2			3	8	
9	38	24		2			5	4	
10	43	20		14			2	6	
11	33	14				1	13	9	
12	30	22		1	1	1	18	14	
1	27	21		1	1	3	6	3	
2	23	24	2		3		2	10	
3	31	22	2	2	1		8	5	
計	357	237	14	26	6	5	88	79	

10. 地域交流事業について

昨今、福祉事業所に求められる地域交流事業であるが、まつかさでは次の取り組みを行った。

- (1) 中沢マルシェ（月2回隔週木曜開催）においては、買い物をする地域高齢者の方々のみならず、参画する軽トラック移動販売やケーキ屋、整体師、地域包括支援センター及び民生児童委員の方々との関わりを通し、お互いの理解を深めた。
- (2) 楽器演奏家を招いての9月フラメンココンサートと12月クリスマスコンサートを催した。地域の方がまつかさを訪れ、楽しく交流ができた。
- (3) 法人のイベントとして、5月ひくまのでの「羊の毛刈りショー」、7月に四季彩堂で「もうひとつの秀逸展」、12月「パラスポーツ大会」を実施した。地域の方を招き、あるいは地域に出て行つてのイベントであり、ボランティアの協力を得ながら、参加者全員が交流することができ大いに盛り上がった。
- (4) 絵画の出展を通して地域とつながるために、以下の絵画展に参加し、多くの方に鑑賞してもらえた。
 - ① 一昨年に続き6月開催のirodori 絵画展（㈱トップ主催、会場イオンモール浜松市野1階シンフォニーコート）に2作品を出品し、1作品が展示された。
 - ② 7月開催の浜松市ふれあい交流センター萩原にて行われる萩原アート展に2作品を展示した。
 - ③ 11月開催の浜松磐田信用金庫きらりタウン支店ギャラリーでの「風を創るひとたち展」に1作品を出展した。
- (5) 事業所前で、PP バッグや季節野菜、アマリリス鉢植えなどを販売し、地域の方に喜んでもらった。
- (6) 赤羽根共同募金会の募金活動を、事業所前にて幟を立てて行い、貢献ができた。
- (7) 社会体験旅行を5年ぶりに再開し、10月に大型バスを貸し切って山梨県河口湖方面の日帰り旅行を行った。利用者にとって、皆が一緒に旅行する楽しい時となった。

まつかさ中期経営計画（別紙）

視点	2024年度の行動計画	評価	考察 及び 次年度の予定
利用者の視点	① 安心安全な作業 ・利用者工賃は平均月額で15,000円が目標。 ② 安心安全な事業所 ・赤い羽根共同募金助成事業の実施。	△ ○	① コロナ禍が明けてから通常の生活が戻ってきたものの、新しい受託先の開拓の成果が現れず残念であった。平均工賃月額（新計算方法）は、13,132円と前年12,373円から759円上昇はしたものの、目標には2,000円近く及ばなかった。今後、受託作業の獲得と自主製品の販売を強化し、次年度は15,000円を超える目標で15,500円を目指す。 ② 赤い羽根共同募金会から助成決定した工事を実施した。内容は、a.敷地南境界に防犯用フェンスの設置 b.作業場工房の天井照明器具のLED化 c.1階作業場2ヶ所に多目的掲示板（ホワイトボード）の設置。
財務の視点	① 利用者数の維持安定 ・定員遵守の方針に従い、利用者数は、定員一杯の20名を極力維持する。利用率は90%以上を目指す。 ② インフルエンザや新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続	○ ○	① 利用者の定員遵守に従い、引き続き在籍者数20名が維持した。利用率については、1日平均18名の90%以上を目指したが、94.5%と目標を大きく上回った。 ② 一昨年5月に5類へ移行してからも、従来通りに毎日の検温や体調確認等の感染対策を継続した。万一感染者が発生した場合には、初期対応に重点を置いて対策する。
業務の視点	① 業務の分掌化、記録の見直し等を行う。 ② PP製品の新品を開発する。	△ ○	①業務の分掌化は、気が付いた細かなことから実施した。小さな積み重ねが大きな成果につながることを意識しながら行った。毎日の各記録の省力化については、今後の課題として継続して取り組んでいく。 ② 流行の新色のPPバンドを使い、新たな魅力を創作した。PP製品全体の年間総売り上げが725,000円と、昨年比で11万円アップした。新たなアクセサリ製品では、野菜やお弁当、ランドセル、クリスマス関係等を開発し販売に繋げた。ひくまのマドレーヌとセットしたバレンタインコラボセットを販売し、好評を得た。
人材の視点	① スタッフの資質向上 ・オンライン研修の実施 ・外部研修への参加 ② 職員の交流実習を実施 ③ ボランティアを受け入れる。延べ100人が目標	○ ○ ○	① オンライン型研修であるサポカレを活用することで適宜必要な研修を行った。小グループ研修や法人全体での職員研修会にて、テーマ別コンテンツを活用して研修を回った。次年度も契約を継続し、研修機会を設けたい。次年度にはサービス管理責任者実践研修と更新研修をそれぞれ1名ずつ受講し、今後に繋げていく。 ② 今年度から3事業所間での現場職員の交流実習が始まり、みなみから2名、ひくまのから3名を受け入れた。 ③ 従来の資源物回収の協力者に加え、パラスポーツ大会での学生ボランティアやフラメンコやクリスマスコンサートでの演奏者等があり、延べ88名と目標100名に近づいた。また、4月から新たに参加している地域の中沢マルシェでは、自分たちがボランティアとしての活動する機会が始まった。

V やしま (共同生活援助：グループホーム)

1. 施設運営

- 共同生活援助事業

個別支援計画に基づいて利用者一人一人の希望や思いに寄り添い、心身共に安定した日々の生活の充実を図った。

また、社会的マナーやルールを身につけ、自立した生活に向けて総合的な支援を行なった。

- 短期入所事業

家庭のレスパイト支援を優先し、自宅での生活が一時困難になった利用者が快適に過ごせるよう、食事の提供、入浴支援等を行った。また共同生活援助事業の利用者と協調性を持ちながら利用者個々の要望に沿った支援を行い、やしまで過ごす時間が充実できるよう支援した。

2. 中期経営計画 (別紙)

3. 施設利用状況

(1) 共同生活援助 (令和6年定員7名)

項 目		単位	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
施設利用状況	開所日数	日	365	366	365
	契約者数	人	7	7	7
	延べ人数	人	2,427	2,383	2,305
	1日平均	人	6.6	6.5	6.4
	利用率	%	95.0	93.0	90.2

・利用者の状況 (令和7年3月31日現在)

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中央区					浜名区	天竜区				7	0
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女		
	0	3	2	2	0	0	7				0	
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定			0	0
	0	2	4	0	1	0	4.0					
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	0	4	3	0	0	0	0	0

(2) 短期入所 (定員1名) (令和2年8月1日より事業開始)

項 目		単位	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績	令和3年度実績
施設利用状況	開所日数	日	365	366	365	365
	契約者数	人	29	21	19	19
	延べ人数	人	561	571	532	595
	稼働日数	日	339	334	316	342
	稼働率	%	92.8	91.2	86.6	93.6

・利用者の状況（令和7年3月31日現在）（契約者数29名）

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計			
	中央区					浜北区	天竜区				男	女	重複所持	手帳なし
	18					0	0							
年齢別	18歳～19歳	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上	性別						
	0	7	4	6	1	1	0		19	0				
障害支援区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定						
	3	4	7	2	3	0	4.1	0						
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複所持	手帳なし		
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級				
	0	2	0	0	1	17	2	0	0	0	3	0		

4. 支援内容

(1) 日常生活動作支援

食事、排泄、入浴、洗濯、清掃、身だしなみを整える等、手際の良い身辺処理ができるよう支援した。

季節に合った旬の食材を使用し行事食を提供することで日本の風習を感じ楽しんでいただいた。

(2) 余暇活動の支援

寮内での活動を中心にレクリエーション、身体活動、創作活動等、ご本人の希望をうかがいながら、出来る限りの支援を行った。年度後半には少しずつ外出の機会を設けた。誕生者がいる月には誕生会を開き、ケーキをいただいた。

〈やしま支援活動〉

活動名	実施回数	活動内容
年中行事	9回	入所利用者の誕生祝い、クリスマス会、豆まき他
地域の行事参加	2回	大人見町の夏祭り・雄踏ふれあい広場に参加した。
販売会见学	1回	四季彩堂販売会
買い物支援	月1~2回	随時買い物に同行した。
園芸・絵画・イングリッシュ	毎週末	生け花、花壇整備、絵手紙・イングリッシュ
外出支援	12回	ドライブ（浜北森林公園・ガーデンパーク・フラワーパーク）・6名の散髪を支援した。
身体活動・レクリエーション	週1回	体操教室の講師による指導で体操や近隣の散歩を楽しんだ。

共同生活をする仲間として、お互いを思いやる気持ちを大事にし、仲間意識を持てるよう、役割を持って参加し楽しめるよう支援を行った。また、グループホームあかねの利用者と交流会を開き、ゲームや茶話会を楽しんだ。

(3) 健康管理

内科・外科・歯科・皮膚科・眼科への通院の支援を行った。また、定期的に歯みがき支援や服薬管理を行った。

朝夕の検温、うがい手洗い及び手指の消毒の徹底等、感染症防止対策を行なった。

12月中旬に利用者5名職員1名が新型コロナウイルスに罹患した。ご家庭や職員の協力もあり大きく広がることなく、また軽症で済んだ。

(4) 菜園管理

野菜の栽培や収穫を体験し、料理に活用する等して菜園での活動を楽しんだ。

5. 災害防止対策

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和6年 5/15 (水)	地震 避難訓練	利用者 8名 職員 2名 10名	17時30分	地震発生を想定。地震発生の場合合図を行いテーブル下に避難。揺れが収まってからヘルメットをかぶって屋外へ避難した。
7/23 (火)	地震 避難訓練	利用者 8名 職員 2名 10名	17時30分	地震発生を想定。館内放送の場合合図で頭部を保護して身を隠した。揺れが収まってからヘルメットをかぶって屋外へ避難した。
8/26 (月)	防災訓練	利用者 4名 職員 2名 6名	13時00分	発電機の操作方法を確認し始動した。防災用品の確認も行い、利用者に災害時の心得を話した。
令和7年 3/16 (日)	火災 避難訓練	利用者 6名 職員 2名 8名	9時30分	台所から火災発生を想定。駐車場に避難した。避難訓練のあとは、紙芝居を使って、火災や地震が起きたときの適切な行動について知識を深めた。
3/28 (金)	防災訓練	職員 5名	10時00分 ～	法人全体の研修を通して、浜松市防災学習センターの見学、救急救命訓練（応急処置とAED体験）を行った。

*非常災害対策計画（BCP）を作成し、職員へ周知を行う。

6. その他

- ①個別支援計画について、本人との面談を随時行なった。また、3ヶ月毎に支援会議を行った。
- ②虐待防止についてチェックリストを活用し、虐待防止についての研修を行った。虐待防止・身体拘束等対策委員会の議事録を職員へ周知した。
- ③感染症防止対策として、うがい手洗い、手指の消毒・換気を行なった。感染症対策委員会の議事録を職員へ周知し感染症の意識を高めていただいた。

VI あかね（共同生活援助：グループホーム、短期入所：ショートステイ）

1. 施設運営

・共同生活援助事業

知的な障害者に対して「住まいの場」を提供し、自立に向けた必要な技能や地域の中で生活していく為のルール等、総合的支援を行った。

また、利用者さんの思いによりそい、より個別化した支援が行えるよう努力した。相談支援事業所とも密接な連携を取りながら、利用者の意思決定を大切に生活の充実を図った。

・短期入所事業

家庭のレスパイト支援を優先し、自宅での生活が一時困難になった利用者が快適に過ごせるよう、食事の提供、入浴支援等を行った。また共同生活援助事業の利用者と気持ちよく過ごせるようコミュニケーションの疎通を図り、滞在する利用者個々の要望に沿った支援を行った。

2. 中期経営計画（別紙）

3. 施設利用状況

（1）共同生活援助（定員7名）

項 目		単位	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	365	366	365
	契約者数	人	7	7	7
	延べ人数	人	2,474	2,452	2,372
	1日平均 利用率	人 %	6.7 95.7	6.6 95.7	6.5 92.8

・利用者の状況（令和6年3月31日現在）

地域別	浜 松 市							磐田市	掛川市	湖西市	合 計	
	中央区										7	
年 齢 別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女	7	
	0	1	2	2	0	0	2		0	7		
障害支援 区 分 別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	0	3	3	1	0	0	4.2	0				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以上	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0

（2）短期入所（定員1名）

項 目		単位	令和6年度 実績	令和5年度 実績	令和4年度 実績
施設利用状況	開所日数	日	365	366	365
	延べ利用者数	人	434	382	368
	稼働日数	人	312	299	282
	稼働率	%	85.4	81.6	77.3

・利用者の状況 (令和6年3月現在)

地域別	浜松市							磐田市	掛川市	湖西市	合計	
	中央区										16	
年齢別	18歳 ～19歳	20歳 ～29歳	30歳 ～39歳	40歳 ～49歳	50歳 ～59歳	60歳 ～64歳	65歳 以上	性別	男	女		
	0	3	9	2	2	1	1		8	10		
障害支援 区分別	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	平均支援区分	未判定				
	0	2	9	3	4	0		0				
手帳所持別	身体障害者手帳					療育手帳		精神障害者保健福祉手帳			重複 所持	手帳 なし
	1級	2級	3級	4級	5級以下	A	B	1級	2級	3級		
	0	0	0	0	1	12	6					

4. 支援内容

(1) 日常生活動作支援

食事、排泄、入浴、洗濯、清掃、身だしなみを整える等、手際の良い身辺処理ができるよう支援した。また、夜間の不眠者に対し、医療面の対応と同時に本人の気持ちに寄り添う支援を行った。

(2) 余暇活動の支援

休日には、市内の公園の散策、買い物支援等を行い、余暇時間の充実を図った。法人のイベント等の外出の際のマナーやルールについて支援した。室内では料理やレクリエーション等の楽しみをもった活動を支援した。

〈あかね支援活動〉

活動名	実施回数	活動内容
ドライブと会食	2回	市内をドライブしてお弁当を摂って会食
市内散策	5回	浜松森林公園、浜松市秋野不矩美術館、ガーデンパーク、フルーツパーク散策、河津桜見学等。
年中行事	8回	入所利用者の誕生祝い、クリスマス会 他。
地域の行事参加	1回	百園自治会夏祭り、浜松祭激練り参加。
販売会见学	1回	四季彩堂販売会见学。
移動支援	24回	移動支援サービスを利用し、外出する(2名)
買い物支援	月2回	随時買い物に同行する。
散歩・園芸	毎週末	近隣の散歩、プランターへの灌水、花苗定植、生け花、草取り
散髪支援	月1回	利用者5名の方に同行する。
料理	1回	お好み焼きを作って、飲食を楽しんだ。
コーラス	月1回	利用者が歌いたい曲を選曲して合唱を楽しんだ。

共同生活をする仲間として、お互いを思いやる気持ちを大事にし、仲間意識を持てるようお互いが役割を持って参加し楽しめるよう支援を行った。

(3) 健康管理

内科・歯科・皮膚科・精神科・眼科への通院の支援を行った。定期的に歯みがき支援や治療のための支援を行った。

朝晩の検温やうがい・手洗いの徹底をはかり、感染症等の予防を行った。

5. 災害防災対策

避難訓練を行った。

実施日	訓練種目	参加者	発生時刻	内 容
令和6年 6/22 (土)	地震・避難	利用者 5名 職員 3名 その他 1名 9名	18時00分	地震発生を想定し、館内放送の合図で頭部を保護して身を隠した。おさまりを待って駐車場へ避難した。
8/1 (木)	火災・避難	利用者 7名 職員 3名 その他 1名 11名	16時45分	お風呂場から出火を想定し、リビングの出入口より駐車場に避難した。
11/29 (金)	防災	利用者 8名 職員 2名 10名	7時00分	非常用自家発電設備について自主点検を兼ねて操作を行った。
12/3 (火)	地震	利用者 8名 職員 3名 11名	19時00分	政府広報オンラインにより、「南海トラフ巨大地震の被害と対策について」ビデオ視聴をした。
令和7年 3/28 (金)	防災	職員 5名	10時00分	法人全体の研修を通して、浜松市防災学習センターの見学、救急救命訓練（応急処置とAED体験）を行った。

6. その他

- ・体制変更手続きを行った。(令和6年9月11日)
- ・浜松市の現地指導により、運営について指導を受けた。(令和7年1月20日)
- ・個別支援計画についてご本人との面談を随時行い、3カ月毎に支援会議を行った。
- ・虐待防止について、チェックリストを活用した。
- ・感染症防止対策として、うがい手洗い、手指の消毒、換気を行った。